

平成27年度 第2回 四條畷市総合計画審議会 会議録

日 時	平成27年10月2日(金) 15:00~16:40
場 所	四條畷市役所 東別館2階 201会議室
出席者	石関委員(会長)、明神委員(副会長)、大川委員、小原委員、藤本委員、森本委員、渡辺委員、河野委員、田中(一)委員、中野委員、林委員、榊井委員、宮園委員、田中(好)委員
欠席者	清川委員
事務局	森川副市長、開理事兼政策企画部長、田中総務部長、西尾市民生活部長、吐田都市整備部長、森本都市整備部参事、高津健康・保険担当部長、北田上下水道局長、坂田教育部長、板東企画調整課長、板谷企画調整課長代理兼主任
議 題	1 開会 2 議題 第6次四條畷市総合計画(案)基本構想に対する意見・提言について 3 その他 4 閉会
配布資料	① 次第 ② 意見公募手続結果概要 ③ 平成27年度第1回四條畷市総合計画審議会会議録 ④ 座席表

(文中敬称略)

<p>事務局</p>	<p><b>1. 開 会</b></p> <p>それでは、定刻となりましたので、四條畷市総合計画審議会を開催いたします。</p> <p>本日の出席委員は14人、欠席委員は1人です。四條畷市総合計画審議会条例第6条第2項の規定に基づき、半数以上の出席により、会議が成立したことをご報告します。</p> <p>また、今回から、行政側職員として、部長級の職員も本審議会に出席させていただきますのでよろしくお願い申し上げます。</p> <p>順に紹介させていただきます。</p> <p>総務部長の田中でございます。(田中部長起立、以下順に挨拶)</p> <p>市民生活部長の西尾でございます。</p> <p>都市整備部長の吐田でございます。</p> <p>都市整備部参事の森本でございます。</p> <p>健康・保険担当部長の高津でございます。</p> <p>上下水道局長の北田でございます。</p> <p>教育部長の坂田でございます。</p> <p>加えて、本日は欠席しておりますが、健康福祉部長の谷口と議会議務局長の石田も次回からは本審議会への参加を予定しておりますので、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>では、会長よろしくお願い致します。</p>
<p>石関会長</p>	<p>それでは、ただいまから第2回四條畷市総合計画審議会を開会します。</p> <p>まず、審議に入ります前に、前回欠席の委員の皆様について、自己紹介をお願いしたいと思います。</p> <p>大川委員からお願いします。</p>
<p>大川委員</p>	<p>大川です。よろしくお願い致します。</p>
<p>田中(好)委員</p>	<p>大阪府政策企画部企画室の田中です。どうぞよろしくお願い致します。</p>
<p>中野委員</p>	<p>楠公に住んでおります中野です。よろしくお願い致します。</p>
<p>宮園委員</p>	<p>四條畷保健所長の宮園です。よろしくお願い致します。</p>

石関会長	<p>それでは、改めまして、事務局から本日の資料の確認をお願いします。</p>
事務局	<p>本日の資料の確認をさせていただきます。</p> <p>1点は次第、2点は意見公募手続結果概要、3点は平成27年度第1回四條畷市総合計画審議会会議録、その他として、本日も持参をお願いしております、第6次四條畷市総合計画（案）、第6次四條畷市総合計画策定のための中学生アンケート及び市民意識調査結果報告書並びに第5次四條畷市総合計画【後期計画】です。</p> <p>以上ですが、本日、お持ちでない委員はおられませんか。</p> <p>なお、机前にお配りしております第1回の審議会会議録については、事前に案をお届けした後、9月15日までに変更等の申し出がなかったことから確定とさせていただきましたのでご報告申し上げます。</p>
	<p><b>2. 議題</b></p> <p><b>第6次四條畷市総合計画（案）基本構想に対する意見・提言について</b></p>
石関会長	<p>それでは次第に沿って会議を進めます。</p> <p>次第1「第6次四條畷市総合計画（案）基本構想に対する意見・提言について」を議題とします。</p>
	<p>事務局、説明をお願いします。</p>
事務局	<p>本日の第2回審議会では、総合計画（案）のP11～P27、基本構想部分についての意見・提言をいただきたいと思います。</p> <p>前回の審議会から約1ヶ月が経過していますので、まずは振り返りとしての基本構想の概要説明と、中学生アンケート及び市民意識調査の結果概要をご報告した後、皆様からご意見をいただきたいと思います。</p> <p>なお、基本構想の説明に関しましては、前回の審議会と重複する部分がありますが、ご了承願います。</p> <p>まず、第6次四條畷市総合計画（案）の11ページをご覧ください。</p> <p>第6次総合計画では、基本理念として次の4点を掲げています。1点が人権尊重のまちづくり、2点が住民と行政が協働で取り組むまちづくり、3点が安心、安全を重視したまちづくり、4</p>

点が地域性を活かした自立的なまちづくりです。

次に、12ページをご覧ください。将来像については、中学生アンケート、市民意識調査及び市民ワークショップ（2050年の夢づくり会議）等を実施した結果、本市には、自然と歴史に育まれた住宅都市としての発展が期待されていることが分かりました。

また、中央枠囲みのまちの将来像「自然と歴史を共だつて 安らぎ ぬくもり 賑わいを育てよう 夢づくり都市 四條畷」については、昨年8月に開催した2050年の夢づくり会議（子ども部会）における検討の中から生まれた将来像の案ですが、意見公募手続（パブリックコメント）において、「共だつて」という文言が一般的に使われないものであるとのご意見をいただいています。

この文言は、そばに従えるという意味で使用する「伴う」ではなく、共に歩むという意味で「共だつて」を使うことにより、計画の中にやわらかさや親しみやすさを表現したのですが、常用外の使い方に関するご意見があることから、この部分についてご意見をいただければと思います。

次に、13ページ、14ページの人口の将来展望の部分については、現在、本市の人口ビジョン及び総合戦略の策定に関する協議をお願いしている、総合戦略協議会での議論に基づき作成した内容と整合を図っています。

なお、前回の審議会でもご説明したとおり、平成62（2050）年の人口規模については、数値をより精査した結果、5万人を5.1万人に修正する予定です。

次に、15ページをご覧ください。土地利用の基本方針については、次の4点を基本方針に定めます。

まず、1点が快適で便利な住みよい都市の創造、2点が安らぎと潤いのある市街地の形成、3点が災害に強い安全な地域の実現、4点が魅力と活力のあるまちの創造です。

次に、17ページをご覧ください。ここからは第2章 まちづくりの基本方向です。ここでは、2050年の夢づくり会議に参加した子どもたちの夢の内容とそれを受けての分野目標を示しています。本日、入口近くに掲示しております模造紙は、夢づくり会議で子どもたちが成果発表を行ってくれた際に使用したものです。お帰りの際にでも、改めてご確認いただければ幸いです。

計画内容に戻りますが、まず、環境保全や公園整備、道路、水

道事業等で構成する、「自然環境の保全を図り、快適な暮らしを実現する基盤づくり」の分野では、広域交通条件の良さやたくさんの自然と歴史を有する本市の地域特性を活用した都市基盤整備、低炭素や循環を基盤とした、みんなで創る環境にやさしいまちづくり、安定的な水道水の供給及び災害に強い下水道整備など、市民生活に直結する公共インフラの構築を計画的に進めることとしています。

次に、19ページのコミュニティ活動や産業振興、都市整備などで構成する、「賑わいと魅力を創造し、まちを元気にする活力づくり」の分野では、豊かな地域コミュニティの形成とコミュニティ意識の醸成、性別に関わりなく個性と能力が発揮できる男女共同参画社会の実現、地産地消を重視した農業振興や商工業の発展支援及び観光振興、公共施設の再整備を行い、暮らしやすく移動しやすいまちづくりを考えています。

次に、21ページの人権尊重、防災、福祉施策で構成する、「地域が、潤い、安らぎ、生きがいに包まれる環境づくり」の分野では、行政はもとより、住民が主体となった防災、防犯の取組み、高齢者や障がい者、子育て世帯を中心とした健康、福祉の地域社会づくり、人権尊重が文化として定着する共生社会の実現をめざすこととしています。

次に、23ページの教育や生涯学習、歴史・文化の保存と継承などで構成する、「学び、文化、スポーツから働きかける夢づくり」の分野については、子どもから高齢者まですべての人が自己実現できる環境づくり、ゆとりと個性、豊かな人間性、生きる力、確かな学力や郷土を愛する心、高い人権意識を重視した教育環境づくり、地域における学校の役割に留意した快適な施設整備、地域の伝統と歴史の継承、多文化共生社会の実現、住民が気軽に体を動かせる環境づくりを進めることとしています。

最後に、25ページの効率的、効果的な行政運営のための、「確かな未来を築く行財政運営に向けた体制づくり」については、将来にわたる健全な財政運営と効率的、効果的な行政運営の推進、近隣市との連携を基本とした行政運営、種々様変わりする行政が果たすべき役割に対応できる人材の確保と職員の育成を図ることとしています。

これらの基本構想の概略をまとめたものが27ページの内容です。

以上、簡単ですが、基本構想の概略の説明といたします。

石関会長	ただ今の説明に対して、ご質問等をいただきたいと思います。 (質問、意見等なし)
石関会長	12ページのまちの将来像の「共だって」という文言の使用について意見をいただきたいと思いますということですが、これについてご意見はございますか。
森本委員	思いはわかりますが、行政が発信する言葉は誰にでもわかりやすいものが良いのではないかと思います。確かに、面白い言葉が良いとは思いますが、成熟した大人だけが対象ではなく、子どもから高齢者まで共通して四條畷市の将来へ向かっていく共通理念としてもっていただくものであるとするならば、このような意見が出るのも当然だと思いますので、平易な言葉に直した方が良いと思います。
小原委員	「共だって」という言葉は、あまり使用されていないと思います。表現方法はいろいろあると思いますが、例えば、もっと単純に、「自然と歴史と共に」という形の方が入りやすいと思います。「共だって」はすぐに意味が入ってこないと思います。意見に対する考え方を見ましたら、修正は行わないこととしますと書かれていますが、これで決定ということでしょうか。
事務局	パブリックコメントを行った結果として、子ども部会から上がってきた意見を尊重しているということですが、今回、皆様のご意見を総括し、その意向に基づいて、最終判断するという事です。したがって、この中で議論していただき、総意として森本委員や小原委員のようなご意見が主流であれば、最大限に尊重させていただいて、判断するように考えています。
渡辺委員	それでは、今の段階で、「共だって」という言葉を変えるとしたらどのように変えるかという案は出ているのでしょうか。
事務局	パブリックコメントで一定の回答をさせていただき、基本的には「共だって」という言葉を使っていきたいと思っています。それは、2050年に50歳を迎える、これからの四條畷を担っていく子どもたちの意見を集約した形ですので、できればこのままで進めたいと思っているわけですが、この審議会で検討していた

	<p>だいて対案がありましたら、それについては市長と相談いたしまして変更したいと考えています。したがって、事務局案としてはこのままの形で考えています。</p>
中野委員	<p>つまり「共だって」という言葉は、子どもたちの中から提案があった言葉ということでしょうか。</p>
事務局	<p>子ども部会を2回開催し、その中で成果発表として自分たちの思いを班ごとに発表していただきました。その中で意見を総括したらこういうことかという話をした時に、一定の合意を得られたので、直接的ではありませんが、総論としては子どもたちからの意見をもって事務局がまとめたということになります。</p>
藤本委員	<p>子ども部会ではどのような表現をされたのでしょうか。</p>
事務局	<p>具体的にこのような将来像が良いという意見はありませんでした。ただ、それぞれの班が発表された中で、そのままの自然と歴史を2050年にも残しておきたいという意味で、一緒に歩んでいきたいという思いが数多く発表されましたので、それを我々が汲み取ってこのようにいたしました。したがって、直接的、具体的に意見があったわけではありません。</p>
田中(一)委員	<p>それでは、修正は可能ということでしょうか。</p>
事務局	<p>事務局の意向としては、子ども部会の思いを尊重して載せていますが、この審議会委員の皆様の総意で対案の方が良いということであれば、持ち帰りまして、一定の判断をし、当然、最大限に尊重していくということです。今の段階でお答えできる範囲はそこまでです。</p>
森本委員	<p>教育部長にうかがいたいのですが、学校教育現場で「共だって」という言葉を生徒に示すのはどうでしょうか。</p>
教育部長	<p>通常は「共に」「共同で」という言い方をします。「共だって」という言葉は、イメージは湧きやすいと思いますが、常に使っている言葉ではないと思います。</p>

森本委員	文法的におかしいと思います。
石関会長	その点の文法的な解釈は調べられたのでしょうか。
事務局	<p>「共に」とか「伴って」という言葉はありますが、「共だって」という言葉は直接的にはありません。先ほど申し上げた感覚の問題で将来像を作っていますので、将来像そのものが文法上で適しているかどうかは重要視していないのが現状です。あくまでもイメージしやすいまちづくりを将来像にあてたということです。民間でもキャッチフレーズ等を作る時は、イメージしやすいものを置き換えますので、そういう視点で作っています。</p> <p>したがって、厳密にいわれますと、文法上は好ましくないかもしれませんが、ただ、イメージ戦略として用いたということなので、具体的な意見交換をすると教育部長の回答と同じように考えています。</p> <p>イメージ戦略ととるのか、文法上に適した言葉を使うのかということについては、皆様の意向をいただきたいと思います。</p>
石関会長	審議会として修正してほしいということになれば、代案を出すことになるのでしょうか。
事務局	できれば、代案をいただいた方が協議はしやすいと思います。
石関会長	修正だけをお願いしたいという提案はなしということですか。
事務局	できましたら、審議会としての意向をお示しいただければと思います。
石関会長	そういう意味で、先ほど「共に」という1つの案が出されましたが、他にどなたか代案等はございませんか。
森本委員	<p>進め方についてもそうですが、総合計画は市の1番の憲法であり、将来像はこれから長く使うものなので、それをここですぐ答えを出すのは無理です。キャッチフレーズはそのくらい重いものだと思います。</p> <p>事務局は役所の中で検討されて分かりやすいイメージ戦略に</p>



	<p>なつたと言われますが、果たしてそれが共感を得られるかどうかはリサーチされていないと感じます。ここにおられる方々も、このような問題が出ていることを前もって知らなかったと思います。</p> <p>ですから、坂本龍馬の言葉に肩を並べるくらいの歴史に残るような名文句を作るという意気込みをもって取り組まれるなら、もう少し時間をかけて熟慮してほしいと思います。</p> <p>また、「共だって」という言葉にすると、常に疑問を呈され、それに対していちいち説明しなければならなくなります。それなら、市の思いを込めた造語ですという説明とセットにする等、そういう手立てをしなければなりません。後で説明に追われるような憲法では困ると思います。しかも、ここで意見を出せと言われてもできるはずがありません。</p>
事務局	<p>第1回の審議会において、この問題については次回以降に議論していただくということで事前に周知させていただいています。</p> <p>また、造語と言われましたが、これを策定した当初はご指摘のとおり、子ども部会でこのように作ったことを補足しようと考え、逆にここに焦点が当たるようイメージ戦略を考えました。</p> <p>ただ、将来像は2050年まで用いていくものですので、十分な議論が必要だと考えています。策定までにはあと数回の審議会を予定していますので、その議論も交えて最終的に判断していただくことも1つの方法かと思っています。</p> <p>補足として、平成18年3月に策定しました第5次総合計画の「夢と希望が輝く活力都市 四條畷 緑と歴史をいかした にぎわいのあるまちをめざして」というフレーズは、市民と2～3回の議論を経て、最終的に投票で決めた経緯があります。ただ、今回はそのような方法を用いていません。</p>
渡辺委員	<p>私も森本委員の意見が正しいと思います。キャッチフレーズは市にとってのイメージ戦略の根幹となるべきものなので、今の議論の中でも、「共だって」の部分に焦点が置かれていますが、それ以前にこの言葉自体が良いかどうかを審議しなければならないと思います。</p> <p>例えば、四條畷をブランディングしていくうえでは、耳あたりの良い言葉ばかりを並べると結局、何の差別化もできなくて、資料を作るために文字を並べたということになりかねません。「自</p>

	<p>然と歴史」は良いと思いますが、「安らぎ めくもり 賑わいを育てよう」というのはどこの市でも思うような言葉が並んでいると思います。子ども部会の意見は重視したいと思いますが、果たしてこれで良いかどうかはしっかりと検証する必要があると思います。</p> <p>さらには、四條畷をもっと若い人たちに住んでもらえるまちにしたいと思っているので、議会の中、私から「学研都市 四條畷」をキャッチフレーズにしたいという意見を出しました。</p> <p>本日は多数の方が出席されているので、どのような言葉が良いのか、もちろん本日は結論を出さないとしても、そのようなことに焦点を当てながら議論をするのが正しい方法だと思います。今ここで「共だって」という言葉が良いのかどうか、代案となる言葉は何かというのは二の次の話だと思います。</p>
事務局	<p>個別の議論から、今、渡辺委員には総体的なご意見をいただきました。我々としては、ボトムアップで進めてきた経緯がありますので、全体的な構成については活かしたい部分もありますが、先の議論に戻らせていただいて、あと数回の審議会で総合計画を読み解きながら進めていく中で、最終的に総論としてご意見をいただければ、持ち帰って市長以下、最大限に尊重していきたいと考えています。今のところはそのような考え方でいかがでしょうか。</p>
石関会長	<p>今、事務局から提案があった考え方で進めていきたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
森本委員	<p>逆に提案ですが、第5次総合計画の時はまちづくり委員が投票したということであり、この中でも市民協働を中心に置いているので、例えば、もう一度公募するとか、何種類かに絞り込んだものを最終的に市民に選んでもらうとか、そのような手続きをとられてはどうでしょうか。</p> <p>また、審議会に意見を求めていただけるなら、次回までにどのようなものがふさわしいと考えるかを宿題として与えていただくこともできると思います。</p>
中野委員	<p>事務局の気持ちはよくわかります。ここにいたるまで色々なことをされてきたので、事務局としては言葉にするのではなく、一</p>

	<p>番訴えたいポイントを提案されてはどうでしょうか。子ども部会が訴求したいポイント、大人の部会が訴求したいポイントを提示して、その中でどのような文言が良いかということをお考えた方が良いでしょう。</p> <p>始めからすべてをなくして公募すると、何のためにこれまで色々取り組んできたのかという話になると思います。</p>
事務局	<p>公募のご提案については、中野委員からご意見を頂いたように厳しいというのが率直な意見です。渡辺委員からは耳あたりの良い言葉を並べると全体がぼやけるという話がありましたが、子どもたちとの意見交換のポイントとしては、「自然と歴史」がベースにあって、「温かい、人情味のあるまちづくり」や「地域でほっこりできたら良い」という意見が多数ありましたので、このような言葉を並べたという状況です。</p> <p>したがって、ベースとしてはこれを基準に置いていただきたいので、公募の手続きは馴染まないのではないかと思います。</p>
石関会長	<p>今の事務局の回答に対してご意見等はございますか。</p>
藤本委員	<p>1つ資料を請求したいのですが、子ども部会では「自然と歴史」「ほっこりしたまちに暮らしたい」というような声が出てきたというお話があり、子ども部会で集められた言葉をピックアップして並べられたと思うので、その子どもたちの言葉を集約したものを資料として配布していただきたいと思います。</p>
事務局	<p>次回までにご提示したいと思います。ただ、概要程度になると思いますが、その点はご了承願いたいと思います。</p>
石関会長	<p>郵送していただいて、次回に先立って委員の皆様に見ていただき、次回までの宿題にするという形で進めてはどうでしょうか。</p>
事務局	<p>事前にお渡しいたします。</p>
石関会長	<p>そのような流れでよろしいでしょうか。</p>
藤本委員	<p>お願いします。</p>

石関会長	<p>この件に関して、他にご意見はございますか。  (意見等なし)  それでは、次回までの宿題としたいと思います。</p>
石関会長	<p>続きまして、第6次四條畷市総合計画策定のための中学生アンケート及び市民意識調査の結果概要について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、第6次四條畷市総合計画策定のための中学生アンケート及び市民意識調査結果報告書に基づき、結果概要をご説明いたします。</p> <p>まず、1ページの調査目的をご覧ください。</p> <p>本アンケートは、新しい総合計画策定の基礎資料とするため、基本構想の目標年次である2050年に50歳を迎える昨年度の市立中学校2年生全員を対象に実施いたしました。</p> <p>次に、2ページをご覧ください。</p> <p>回答者の属性は、男性が49.8%、女性が49.6%で、内訳は、四條畷中学校が32.3%、四條畷南中学校が23.2%、四條畷西中学校が25.1%、田原中学校が19.4%でした。</p> <p>次に、3ページをご覧ください。</p> <p>問2の「あなたが住んでいる『まち(近所)』の好きなところはどこですか。」の問いに対する回答は、「自然・田園環境が良い」が47.0%、「災害が少ない」が33.0%、「人間関係が良い」が24.8%、「公害が少ない」が21.8%、「歴史がある」が19.7%になりました。</p> <p>次に、4ページをご覧ください。</p> <p>問3の「あなたが住んでいる『まち(近所)』の嫌いなところはどこですか。」の問いに対する回答は、「買い物に不便」が32.3%、「交通が不便」が23.3%、「物価が高い」が12.5%、「古いものばかりがある」が11.5%でした。</p> <p>問4の「あなたは、四條畷市のことをどのように思っていますか。」の問いに対する回答は、「好き」が36.9%で、「どちらかといえば好き」の36.1%を合わせると7割以上が好感を持っていることが分かりました。</p> <p>次に、6ページをご覧ください。</p> <p>問5の「あなたは、将来、大人になっても四條畷市に住み続けたいと思いますか。」の問いについては、「進学や就職で離れても</p>

戻ってきたい」が42.7%で、「住み続けたい」の13.8%を合わせると5割以上が将来の居住を意識していることがわかりました。

次に、7ページをご覧ください。

問6の「四條畷市の将来像についておたずねします。あなたは、将来、四條畷市がどんなまちであってほしいと思いますか。」に対する回答は、「交通事故・犯罪・公害・災害のない安心・安全なまち」が56.8%で、以下「豊かな自然と仲よくできるまち」が51.9%、「映画や買い物が楽しめるまち」が36.5%、「みんな元気で仲良く暮らせるまち」が35.1%、「いつも整然として綺麗で気持ちよいまち」が25.6%と続いています。

最後に、8ページは、「2050年にかなえたい夢」や「2050年にあなたが市長だったらしてみたいこと」についての主な意見の内容です。

次に、15歳以上の市民3,000人を対象とした市民意識調査の結果概要に移ります。

5ページめくっていただき、「調査の概要」をご覧ください。

調査目的については、中学生アンケートと同内容です。

調査項目は、「四條畷市のまちづくり」に関する項目が8問、「自然環境の保全を図り、快適な暮らしを実現する基盤づくり」に関する項目が4問、「賑わいと魅力を創造し、まちを元気にする活力づくり」に関する項目が6問、「地域が、潤い、安らぎ、生きがいにつながる環境づくり」に関する項目が4問、「学び、文化、スポーツから働きかける夢づくり」に関する項目が3問、第5次総合計画の検証として使用するため項目に加えた「身の周りの10年間の変化について」の内容が2問、回答者の属性を問う「あなたご自身のことについて」となっています。

次に、2ページをご覧ください。

調査の総括ですが、回答者の属性については、女性、高齢者の比率が高く、世帯は、核家族などの2世代世帯がほぼ半数、持ち家、市内での居住年数10年以上が大半です。

住みよさの評価、定住意向については、大半が住みよさを評価し、7割弱に定住意向があることがわかりました。

好きなところ、よくないところ等については、好きなところとして、「自然環境がよい」、「交通の便利さ」、「歴史や伝統が感じられる」が多く、よくないところは、「余暇を楽しむ場所が少ない」、「買い物に不便」、「交通の不便さ」との意見が多くありまし

た。

まちの将来像では、キーワードとして、福祉・医療・コミュニティ等の「安心」、自然があり住環境が整備された「快適」、交通や防犯の「安全」、「子育て」及び「活力」があがりました。

活用すべき地域資源等については、四條畷らしさをイメージする言葉として、山等の「自然」と神社等の「歴史」、活用すべき地域資源として、「自然資源」、「特産品」、「歴史遺産」、「伝統文化」、知人・友人を案内したい市内の観光地としては、「四條畷神社」、「緑の文化園」、「室池」、「飯盛山」があがりました。

重要な課題としては、「少子高齢化」、「地域福祉」、「安全・安心な都市」、「経済の活性化」が順に並び、施策の重要度と現状の満足度については、課題となる「重要度が高いが満足度が低い」施策として、「交通」、「都市整備」、「道路整備」といったインフラ関連と「労働」などがあがりました。

生活の実感等については、日ごろの意識として、省エネ、ごみの分別収集や資源回収への協力意識が高く、美化活動への参加意識は比較的低い傾向にありました。

一方、協働のまちづくり指針については関心が低く、地域課題解決の中心となるべき組織は、「行政」、「隣近所」、「地域団体」、「一人ひとりや家族」の順に意向が高い結果となりました。

次に、3ページをご覧ください。

行政への参加・協力の現状と今後についてです。

現状としては、「アンケートへの協力や施策への提言」、「環境に配慮した取組みの実施」、「環境美化活動への参加」、「非営利団体での活動」、「地域の防災活動への参加」の順に参加割合が高く、今後の参加・協力の意向で高いのは、「環境に配慮した取組みの実施」、「アンケートへの協力や施策への提言」、「環境美化活動への参加」、「学校安全対策への協力」、「地域の防災活動への参加」であることが分かりました。

安全・安心活動については、「自分や家族の健康管理に心がけること」への意識が最も高く、子育てのしやすさについては、半数近くから評価をいただけていることが分かりました。

生涯学習等に関する活動や行動については、現状として、生涯学習への参加の割合が3割、市の歴史・文化の継承活動への参加の割合が1割弱との結果になりました。

最後に、身の回りの10年間の変化については、良くなったという評価が、「生活環境」、「交通環境」、「福祉サービス」、「健康

	<p>づくり意識」、「暮らしの安全性」、「地域の交流活動」、「教育環境」「生涯学習環境」、「産業活動」の順に並びました。</p> <p>以上が中学生アンケート及び市民意識調査の結果概要です。</p> <p>なお、このたびお示ししている総合計画（案）は、これらのアンケート結果に加え、教育委員、産業振興ビジョン推進協議会、文化協会、民生委員児童委員協議会、街かどデイハウス「さんら」、消費生活友の会、自主防災組織ネットワーク会、区長会、防犯委員会及び元第5次四條畷市総合計画進捗状況検討委員会の皆様への意見聴取を行いながら策定してきたものです。</p> <p>また、6月～7月にかけて、意見公募手続（パブリックコメント）を実施し、広く市民の皆様からのご意見を募りました。お配りしている、意見公募手続結果概要と書かれた資料がパブリックコメントでいただいた意見とそれに対する市の考え方をまとめたものですので、改めてご確認いただければと思います。説明は以上です。</p>
石関会長	<p>それでは、総合計画（案）の27ページまでの部分について、意見・提言内容を検討したいと思いますが、まずはお一人ずつ順番にご意見をいただければと思います。</p>
大川委員	<p>今のところございません。</p>
小原委員	<p>将来人口の推計の後に、人口の将来展望として、平成62年までに、生産年齢人口の割合50%以上をめざしますと書かれており、間接的にはこれで良いと思いますが、それ以前に私は1つの提言を述べたいと思います。</p> <p>今、世間では少子化高齢化問題として様々な議論があります。その話の前提になっているのは、少子高齢化になると10年、30年、50年後は大変になるということであり、それがあたかも事実のように話されているといます。果たして、本当にそうなのかと私はいつも疑問を抱いていました。そうした中で調べてみますと、例えば、最近、学者の中でも千葉大学の廣井良典教授や政策研究大学院大学の松谷明彦教授等から、それを否定する議論が出てきました。彼らの意見は、将来、人口が少なくなっていくこと自体が本当に市あるいは市民にとって不幸につながるものかどうかということです。</p> <p>この問題については、12月議会で取り上げたいと思っています</p>

<p>藤本委員</p>	<p>すので、ここではそれ以上は述べませんが、この目標を掲げる以前に、そのような観点の考え方もあることをご提案したいと思います。</p> <p>1点だけ教えていただきたい点があります。同じく将来人口について、アンケートの集計で子育てに関しては半数の方が評価されているということですが、逆に半数しか評価してもらえていないと思ってしまいました。</p> <p>これについて、将来人口のところに、住民の定住化を図りますとありますが、どのような取組みをされていくのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>今回は人口について2人の方からご意見をいただいています。まず、算定については、国が示す2040年の人口構造をベースにしており、合計特殊出生率や生産年齢人口の割合50%については国の基準をベースに算出しています。その結果、5.1万人になり、前回も人口ビジョンの作り込みについて意見があったと思います。</p> <p>これについては国が示すものを参考に算定し、かつそれに見合う施策を並べているという状況で、この会議とは別に、総合戦略という5ヶ年計画の中で、子どもに特化した施策を5年間に集中して進めていくことを考えています。</p> <p>その中で、医療費についてはこの7月から義務教育までの補助をすることになり、子育てに関しては、例えば、健康教室等、健康面や医療的なものについて1本の筋があります。</p> <p>それから、子どもの健全育成の観点から、現在積極的に取り組もうとしているのが、感覚運動等を取り入れた子どもの発育に関するものです。小さな取組みですが、今の子どもたちは体幹がしっかりしていないという見解が数多く示されていますので、それを強化する取組みを進めて、広く発信していこうという観点です。</p> <p>また、保育所問題等については、現在、事業計画の中で、1,100人くらいの事業規模を設けて対応しており、待機児童についても数年前には大阪府内でトップでしたが、徐々に減らしている状況で、今後は認定こども園や小規模保育等、多様な環境を用いながら育てやすい、預けやすい、いろいろな人に携わってもらって子どもが育っていく環境をつくっていこうとしています。</p> <p>また、子どもたちがいろいろな困難に陥った時に反発する力を</p>



	<p>プログラミングする、ファンフレンズという支援プログラムを進めています。これについても、公立保育所、公立幼稚園、民間保育所等、市域全体に広がっていくよう取り組んでいます。</p> <p>今は虐待問題も大きな問題になっていますが、虐待に対処するだけでは根本的な解決にならないので、例えば、玩具や質の高い絵本等の貸出しを通じて親と関係をつくり、そこから問題を発見して、色々な形でアプローチをしていくという取り組みを進めています。</p> <p>これらにより、子どもたちが住み良く、育ちやすい環境をつくることをめざしています。</p> <p>また、就学以降については、現在、教育委員会で進めている、学力向上や社会教育の施設整備等、色々な形で18歳まで対応していきます。このように、それぞれの成長段階に応じた様々な取り組みを進めていきたいと考えています。</p>
藤本委員	わかりました。
森本委員	<p>人口の話になりますが、4年前に初めて議員になり、2年目くらいに議会で市の将来人口についての議論がありました。当時の市の答弁は、ほぼ横ばいではないかということでした。それがわずか2年前のことであり、当時はそのような見通しだったと思います。それが今になって、急にこのような推計が出されています。</p> <p>私は、日本が過去に経験したことのないような社会の変革期を迎え、誰もが将来を見通し得ない環境にあるということ、まず認識することから始めなければ、住民に対する公共サービスの安定した維持はできないのではないかと思います。</p> <p>例えば、このような推計を出すのは良いのですが、この総合計画には、10年か20年後に起きるといわれている、南海トラフの大地震が起きた時にはどうするのか、その時に市はどのくらいのお金を用意しなければならないのか、何をしなければならないのかということが必要不可欠だと思います。必ず起こると予測されているものは計画に盛り込むべきであり、もしも起こらなければ幸運というくらいの気持ちで取り組まなければ、このようなしっかりした計画を立てる時には大変なことになると思います。</p> <p>先ほども学校の統廃合の話があり、あたかも決まったことのように進められていますが、23年も24年もかけて巨額の借金をしようとしています。もし、借金を積み上げて使える財布が小さ</p>

<p>事務局</p>	<p>           くなった時に大震災が起きたら、何ができるのかというところまで踏み込んで話をしておかなければ、市民に対する責任は果たせないと思いますので、そういうところもぜひ盛り込んでいただくことをお願いしたいと思います。         </p> <p>           それから、市民のアンケート調査の、知人・友人を案内したい市内の観光地はどこかという設問に対して、「四條畷神社」、「緑の文化園」、「室池」、「飯盛山」という回答が出ていますが、逆に言えばこのくらいしかないということです。         </p> <p>           以前もお話したことがあると思いますが、四條畷の歴史を調べるのは大変なので、むしろ今までになかったような新しいものを生み出していく方に転換していくべきではないかと思います。過去のを引っ張り出して何をして、他所にはもっと良いものがたくさんあるので競うのは無理です。それよりも、創り出していく、クリエイトするということです。四條畷から世界で初めてのものを創り出していくという意気込みを、この中に意識として盛り込んでいくことが必要だと思います。         </p> <p>           せっかくここまで言葉にこだわっていかうとするのであれば、クリエイトしていくという意気込みも重要です。クリエイトの発信地として、以前、大阪電気通信大学の前の理事長がおられた時に、四條畷をハリウッドにしたいと言われていましたが、あれは素晴らしい考えだと思います。そういう産学連携の大きな柱を、この中にぜひ作っていただきたいと要望しておきます。         </p> <p>           1つ1つ答えていくのは難しいので、総括して答えさせていただきます。平成24年3月に第5次総合計画【後期計画】を策定した時から、人口減少は見込んでおり、横ばいという議論もありましたが、平成32年には約56,300人と推計しています。また、平成22年からは減少傾向に転じていることを示させていただいた経過があります。         </p> <p>           それから、今後について、新たな掘り起こしをするということについては、先ほど森本委員も言われたように、短期的な取組みである総合戦略の中でも様々な議論をいただいています。これについては、様々な機関等にご協力をいただきながら、また、参画、協働しながら進めていきたいと考えています。これはあくまでも総合計画ですので、具体の取組みについては実施計画等でおさえたいと考えています。         </p>
------------	---

<p>渡辺委員</p>	<p>アンケートは手間も時間もかけて行っており、極めて重要だと思っています。例えば、問2のところで、「自然環境がよい」、「買い物に便利」、「交通の便利さ」等の結果が出ていますが、数字を出す以上はこれをどのように活かしていくかということがより重要になります。</p> <p>そういう意味で、四條畷ではこういう結果が出ているけれども、他市ではどのような結果が出ていて、その差をどのように分析して、どのように政策に反映していくかという視点が重要ではないかと、アンケートに関しては思っています。</p> <p>総合計画については、非常に重要なものなので、特に進捗管理が求められると考えています。6ページで、総合計画は最上位に位置づけられ、その下に都市計画マスタープランや分野別計画があり、その下に部長マニフェストがあるので、それぞれの項目ごとにどのように進捗管理をしていくかということが、我々議会の責任でもあり、大きなテーマではないかと思っています。</p> <p>もう1つ、総合計画の中でさらに重要なものとして、まちの将来像として、「自然と歴史を共だって 安らぎ ぬくもり 賑わいを育てよう 夢づくり都市 四條畷」というフレーズがありますが、第1次～第5次の総合計画の中ではどのような言葉になっていたのか教えていただきたいと思います。</p> <p>将来像に関しては、単発的に打ち出していくのではなく、連続性も一定必要ではないかと思うので、第6次総合計画を立てる上において、第1次～第5次がどうなっているかということも重要だと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>アンケートに対する今後の評価、検証について、渡辺委員は恐らく客観評価的のことを言われていると思いますが、我々は、今後、総合計画に基づいて施策、事業等を進めていく中で、定期的に同じようなアンケートをして回答の推移を見ながら、どこが欠けているか、どこを重点的に取り組むべきかということを考えながら進めていこうと思っています。</p> <p>また、総合計画の枠組みについては、分野別計画や部長マニフェスト等を予定していますが、分野別計画についてはそれぞれ進捗管理をベースに考えており、一部の計画については評価検証を行う委員会が立ち上がっており、一定の評価をいただいて翌年度に反映していくというPDCAサイクルで回しています。</p> <p>部長マニフェストについては、総合計画に掲げる施策、事業に</p>

	<p>加えて、時の市長が方針を決めて、そこで銘打った取組みを併せ、1年間の成果を見据えトータルの取組みを示していくということで、それを広く公表して一定の評価をいただきたいと考えています。</p> <p>第5次総合計画までの、まちの将来像については、第4次までが長い期間市長をされていた森本市長が福祉をメインにされていたので、文化・歴史かおる福祉都市というようなイメージで一貫されていました。第5次総合計画については、田中夏木市長が新たに活力をキーワードとされたので、先に紹介した内容となっています。</p>
石関会長	それは、この件に関する資料として郵送していただけますか。
事務局	郵送させていただきます。
石関会長	渡辺委員は他によろしいでしょうか。
渡辺委員	結構です。
河野委員	<p>アンケートの中に、田原は不便だという意見がありました。私は不便とは思っていません。私は田原から北新地に通っていますが、快速急行で20分、ここから田原までは夜は車で10分なので、合計30分ほどしかかかりません。自然のある環境が大阪から30分のところにあるわけです。生駒をまわると1時間半です。その点をアピールしなければならないと思います。</p> <p>また、田原は学研都市の端にあり、駅の名前を変えてほしいという思いもありますが、極論すると、市の名前は変えられないのでしょうか。市からアピールしていけば、JRも考えると思いますし、学術のあるところという意味であれば変わると思います。</p> <p>学研都市にある国会図書館は不便なので、こちらの方に学校の話があったように、田原に研究施設をつくれれば病院もありますし、高齢者も一緒に二世帯が入れるようなまちづくりができると思います。国の人口が減ることによってそのようにみられています。学術的な都市としてつくれたら人口も増えると思いますので、先細りでだめだという考え方は捨てた方がよいと思います。私は打って出るべきだと思います。</p> <p>産業についても、徳島の上勝村で高齢者の方々が葉っぱビジネス</p>

	<p>スをされていますし、先日もテレビ番組で神子原米を法王に送って称賛され、それまで売れなかった米が売れるようになったという話が紹介されていました。そのように、何か創っていかねばならないことがもっとあるのではないかと思います。</p> <p>交通の便は全く悪くありません。私も最初は生駒まわりで通勤していましたが、バスが増えたので、帰りも生駒まわりなら大阪の本町を11時半に出なければなりませんでしたが、今は北新地を12時33分発で駅からタクシーを使えば1時には帰宅しています。深夜バスなど色々な方法を使えば、もっと良いまちになると思います。</p> <p>また、ここは坂になっていますが、奈良からは平たんなので、サイクルロードでサイクリングができます。逆に言うと、四條畷市だけの観光では四條畷神社等しかないという話がありましたが、歴史の中では奈良も京都も大阪も全部関連していると思うので、それを全部つなげていかねばならないと思います。</p> <p>先ほど石関会長が作られたアプリを見せていただきましたが、そういうつながりをつくっていくともっと良いまちになると思いますし、皆が住みたいまちになると思いますので、是非ともお考えいただきたいと思います。</p>
田中(一)委員	<p>土地利用の基本方針の(2)安らぎと潤いのある市街地の形成に関して、基本構想全体はアンケート等をしてソフト面では計画されていると思いますが、ハード面については、例えば、田原地区は開発されて良い都市形成がされた一方で、山を下った忍ヶ丘駅前辺りはもう少し区画整理等、長期の計画を立てて開発すれば人口も増えて、もっと活力ある都市になるのではないかと思います。この点も5年間に計画だけでも立てて、将来のまちづくりのもとになるようにしていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>ハード整備については、2050年までの大きな方針として、まちづくり長期計画を立てており、短期・中期・長期に3分割して、短期は学校の再編整理、中期は既存の公共施設の集約化、集合化、長期については道路や橋梁等、まちづくり全般をとらえています。それで一定の方針を示させていただいて、四條畷小学校が廃校になるということなので、そこに福祉と教育の複合施設をつくりたいと考えており、総合センターがそちらに移転して、跡地に市役所を拠点としながら公共施設を集合化しようという大</p>

	<p>きな方針を出しています。</p> <p>ただし、これはあくまでも行政側が立てた方針ですので、現在、それと並行して公共施設の総合管理計画を作っています。既存の公共施設の老朽度、市民ニーズ、強み、弱み等を総合的に分析して、必要なのか、別の施設と融合を図れるかどうかを検討し、来年度に市民とワークショップを立ち上げて、意見交換をしながら一定の方針を決めていこうと考えています。</p> <p>それについては、総合計画（案）の6ページの枠組みの中に記載していますので、田中(一)委員が言われた内容をもとに我々も進んでいくとご理解いただければと思います。</p>
田中(一)委員	わかりました。
中野委員	この総合計画は市議会にかけられるのでしょうか。
事務局	報告はいたします。
中野委員	<p>反対意見が出ることはないのでしょうか。これは少子化に向けた対策が主力になるところがありますが、先ほど小原委員が、少子化は悪いことなのかという意見を述べられたので、少子化に向けて作っている意味を否定されていると思います。人口が少なくなると何が悪いのかと言われたのは、4万人になったら4万人の生活をすれば良いのではないかという意味に受け取りましたが、そういう意見が市議会に出ることはあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>作り込みの話からしますと、地方自治法が基本ですが、従前の法では基本構想を市で立てて、市議会でも可決されなければならないことになっていました。それが地方自治法の改正によって、市議会と意見交換はしなければなりません、議決までは求められなくなりました。</p> <p>したがって、正式な場での審議はありませんが、説明責任は果たさなければなりません。</p> <p>少子化について先ほどいただいたご意見は、少子化の強みも活かしてはどうかというように受け止めましたので、全否定されたとは思っていません。減っていく中でそれを強みとしてどう活かしていくかということをお考えの方が良いのではないかとご提案として受け止めており、否定されたとは理解していません。</p>

小原委員	<p>誤解があったと思いますが、今言われたように、全否定ではありません。そのような考えも世の中にあるということで、少子化は仕方がないと考えるのではなく、あくまで少子化を前提に考えたうえで人々の暮らしを豊かにしていくためにはどうすれば良いかという発想ですので、全否定ではないことを申し上げておきたいと思います。</p>
石関会長	<p>よろしいでしょうか。</p>
中野委員	<p>わかりました。</p>
林委員	<p>現在子育てをしている立場からの意見になるので、この内容にふさわしいかどうかはわかりませんが、学校、家庭、地域が連携してというフレーズをよく聞くものの、実際は仕事をされている母親も多く、残念ながら地域に対する関心や学校に対する関心が日々薄れていると実感しています。</p> <p>例えば、各地域に育成会や子ども会があり、市子ども会連合という組織もありますが、ここ数年はうまく機能していない印象を受けるので、そういう子どもたちの組織を支えるサポート体制を表現できれば良いと思います。</p> <p>保育所の待機児童対策も良いと思いますが、自宅で子どもを育てている母親に対しても、孤立しないように前面に出せるようなサービスをしていただきたいと思います。色々なサークルもあると思いますが、なかなか情報が入ってこないし、印象が薄いようです。これから子どもが増えていくのか減っていくのかは言い出すときりがありませんが、現状に合った暮らしをしている家庭のサポートをしていただきたいと思います。</p> <p>私は西部地域に住んでいますが、例えば、子どもが遊ぶ場所もなく困っていますし、近所を歩けば子どもがうるさいと怒られ、公園に行ってもボール遊びができないと常日頃から言われています。先ほど体幹の問題がありましたが、体幹や運動神経は遊びの中から生まれるものもあると思うので、せっかく長期の計画を立てられるのであれば、子どもがのびのびと遊べる環境づくりをもっと入れていただくと良いと思います。</p>
事務局	<p>子ども会や市子ども会連合については、教育委員会でも一定の方針を立てており、年度ごとにそれを具体化していくよう取り組</p>

	<p>んでいます。確かに、学校、家庭、地域の連携がなかなか図れていません。これは必ずキャッチフレーズに掲げており、我々も模索している状況です。これについては地域の協力なくして実践はないので、日々の取組みの中で活かしていきたいと思っています。</p> <p>また、保育所などどこにも属さない家庭に対しては、つどいの広場やファミリーサポートセンター等の事業を展開していますが、なかなか周知ができていないので、昨年度、ホームページに子育て情報サイトを設け、カテゴリごとに可視化できるようにしています。ただ、まだ情報量が少ないので、過渡期として、今後はそれを広めていきたいと思っています。よろしくお祈りします。</p> <p>広場等については、学校の再編整備の中で敷地が生まれますので、一定の整備を図っていくという方針をもっています。ただし、まちづくり長期計画の中で具体の整備計画を立てていきますので、現段階ではどこにどれだけ整備するかということはお示しできない状況です。</p>
石関会長	よろしいでしょうか。
林委員	はい。
石関会長	続いて、榊井委員をお願いします。
榊井委員	今のところは特にありません。
宮園委員	<p>私は保健医療の立場なので、まちづくりという大きなところでは素人的な発想になってしまいますが、今のお話を伺っていて、若い世代をどうしていくかということを確認に出していくことが必要ではないかと思いました。少子化で地域のつながりが希薄になってしまった社会の中で、そもそもここに住んでほしいのか、来てほしいのか、そのあたりの方向性を方針として出された方がよいと思います。今いる人に出て行ってほしくないのか、それ以上にもっと新たな人たちに来てほしいのかという方向性の明確化です。</p> <p>先ほど少子化の話がありましたが、国がいう少子化のイメージは限界集落等を意識しているので、大阪市に近いエリアの中でも</p>



四條畷市はそこまでの話にはならないと思います。そうではなくて、近接する大阪市には外から人が入っていますし、東京が一番特徴的ですが、若い人が続々と入って来て出て行くという状況がある中で、四條畷は大阪市と非常に近いところにあり、私は大阪市内から通っていますが、交通の便が良い場所です。したがって、人々を呼び込めるだけのパワーを持っているのではないかと私もこちらで働き始めてから思っていますが、そのあたりをうまく前面に出せる計画にできると良いと思っていますところです。

保険医療という立場から一言述べますと、最近、保険医療に対する市民の考え方と、実際に提供する立場、特に医療を提供する先生方の考えにはギャップがあると感じています。市民は、できるだけ最高の医療を求めたいと思っているので、大阪市内や大学病院等にかかりたいという意向がありますが、地域の病院の先生方には、少し前までそういう大学病院等で働いていた方がいますし、そういう病院との連携もきちんとできています。それなのに、なかなか地域の病院にかかりたがらない方もおられて、逆に大学病院等の大きな病院から地域の病院に紹介しましょうと言われたら、先生から見捨てられたように感じると言っている方もいるようなので、地域医療は提供側が思っているほどはうまくいっていません。

提供側がもっともどかしいところは、医療保険という完全な計画経済の中で医療が自由経済になっていないという点です。我々の病院はもっと良い医療を提供できるというような形で自由にできない部分があり、そういう部分でも医療が進まず困っている部分もあります。

そういう中で、第5次総合計画を確認しますと、健診や健康づくりというキーワードが出てきます。健康をキーワードとしてどこまで前面に出すかという課題はあるかも知れませんが、そういうものについてもぜひ計画の中でしっかりと情報を盛り込んでいただければと思います。

事務局

医療について様々ご教示をいただきありがとうございます。

健康の面につきましては、大きな施策として継続して盛り込んでいくことを考えています。

なお、定住と人口流入は我々も0か100とは思っておらず、どちらに重きを置くかという、過疎地域でもないですし、人口流入は大きな起爆剤的なものがなかなか見出せない状況なので、

<p>田中(好)委員</p>	<p>まずはできる限り定住化に重きを置いて進めていきたいと思っています。</p> <p>提案も含めて何点か話したいと思います。</p> <p>まず、人口の将来展望のところ、短期、中期、長期と目標を立てられており、短期目標は転出入の均衡をめざすとなっていますが、どこかに現状を入れた方がよいと思います。現在、四條畷市の転出入がマイナスなのかプラスなのかということがわからない状況ですが、プラスに転じる必要があるのか、それともすでにプラスなのでそれを維持していくのかは後の基本計画に関わりますので、そこは書かれた方がよいと思います。</p> <p>それから、中期、長期では、5,000人、あるいは2,000人の増加を見込まれており、中期目標では出生率の回復シナリオを入れていますが、5,000人の増加を出生率の回復によるプラスでどの程度賄うのか、また、他市、他府県からの転入を見込む社会増でどの程度賄うのか、プラスの部分をどういう人口の増加で見込んでいくのかというところも示された方がよいと思います。</p> <p>これも分野別計画や総合計画の基本計画部分で社会増を見込むのか、子育て環境を充実させて、出生率を回復させることで増加を見込むのかというところで変わってくるのではないかと思います。</p> <p>人口のところでは、昼夜間人口比率もみてはどうかと思います。今後の大きな柱立ての中に、方向として賑わいを立てられていますので、日本全体で人口が減少する中で、定住人口という考え方と交流人口、観光で来られる方やビジネスで来られる方、定住はしていないけれども他県域から入ってきて昼間に滞在している方の人口もみてはどうかと思っています。</p> <p>もう1つは土地利用方針です。第5次総合計画ではゾーニングが入っており、今回の第6次の案ではゾーニングを外されていますが、ここはどうされるのでしょうか。市民からも自然環境豊かという意見が非常に多いので、土地利用方針として、自然環境の保全をどうみていくのかということについては、文言だけで示すよりも、第5次総合計画のように地図上のゾーニングを示す方がわかりやすいのではないかと思います。</p> <p>最後に、基本方向はそれぞれ項目ごとに立てられて、基本方向についての文章が書かれ、中学生の夢の話があって、最後に夢を</p>
----------------	---

	<p>イメージ化した文言が入っていますが、前段の基本方向の文言と、中段、後段の夢の部分とのつながりが悪いところがあります。</p> <p>具体的に例を挙げると、19ページの賑わいと魅力を創造し、まちを元気にする活力づくりのところ、次のページに夢の形として将来の夢が実現すればどうなるかというイメージを書いています。ここに近居という言葉が急に出てきます。近居自体が良い、悪いということではありませんが、ここを見ると、四條畷市が近居というキーワードに重きを置いて、これから近居というキーワードで人を集めていく、あるいは定住促進を図っていくように見えます。しかし、前に戻ると、近居というキーワードを引き出せる文言がないので、このあたりのつながりを意識するか、あるいは、将来像は一例であることを断ったうえで示すか、工夫をしないとここはダイレクトにつながっているように見えるので、違和感があると思いました。</p>
事務局	<p>まず、人口の増減については、ご指摘の通り、具体を記していません。この内容は先ほどの、総合計画を中心とした枠組みの中では分野別計画で謳っていくということで、現在、議論を進めています総合戦略では、社会増、自然増、人口の転入出の割合を具体的に示しているの、基本的な考え方としては分野別計画（総合戦略）の中で具体を盛り込んでいくこととなります。</p> <p>併せて、土地利用については、総合計画がトップにあり、都市計画マスタープランは今年と来年で策定を予定しているので、まだ定まっていない状況です。そのため、大きなゾーニングをせずに方針だけを記載しており、ここは間に合わないのではないかと認識しています。</p> <p>最後の基本方向と子どもたちの夢の形については、ご指摘の通りだと我々も改めて認識しましたので、考えさせていただきたいと思います。</p>
石関会長	よろしいでしょうか。
田中(好)委員	はい。
石関会長	副会長から何かありませんか。
明神副会長	総合計画の全体的な課題においては、計画の実効性を何度か言

<p>事務局</p>	<p>われていたと思いますが、進捗状況の管理について、評価体系か評価指標のようなものを作られているのでしょうか。それは逆にどれくらい市民にまで及んでどれくらいの実効性を積み重ねていかれるのか、あるいは四條畷市役所の全職員の共有部分としても具体的なものがありましたらお示ししていただければと思います。</p> <p>遡りますが、第5次総合計画では市民の方からのボトムアップで作り込んで、ワークショップも立ち上げて、その方々に参画していただいて毎月1回進捗管理を行った経過があります。</p> <p>加えて、成果指標を設けてできる限りアウトプットではなくてアウトカム、つまり何を進めたかではなく、取り組んだことでどういう成果を求めるかという指標を設けましたが、これはあまり行政に馴染まないところがあり、第5次総合計画については数値は追ったものの、市民参画の進捗管理については停止したという状況です。</p> <p>今回は部長マニフェストを作りながら年度末の成果目標を立て、それに基づいて市民の一定の評価をいただき、アンケートを年次別に追って、その評価に基づいて一定の相対評価をしていこうと考えています。前回のやり方が良いのか、今回のやり方が良いのかは結果をみないとわかりませんが、今回の総合計画が2050年を見据えていて、第1フェーズ、第2フェーズ、第3フェーズと設けているので、第1フェーズの中で前の方が良いとか、違う評価の方が良いということであれば適宜シフトできるような柔軟性は持とうと考えています。</p>
<p>明神副会長</p>	<p>持っておられることは予測できていたのですが、市民にも分かるように、そういうものが3年計画か4年計画の実効性として表に出てくる形でなければ市民が置き去りにされていくところが多いと感じていましたので、また教えてください。</p>
<p>石関会長</p>	<p>私からも意見を述べたいと思いますが、中学生のアンケートをとって総合計画（案）が決定した後、中学生に対してその報告や説明はされているのでしょうか。</p> <p>せっかくアンケートに答えてくれたので、自分たちの意見がどのように反映されて計画ができたのかということ、職員の方から説明された方が良いと思います。子どもであっても市民ですか</p>

	<p>ら、市民が市政に参加するということでもありますし、選挙権が18歳以上になると、中学生もあと3年で選挙権を持つことになるので、市政に参加する意識を持たせてほしいと思います。</p> <p>また、小学生にも、市がこういうことを5年間かけてしようとしているという説明をしてほしいと思います。中学生でアンケートに答えて、何らかの形で参画できるというシステムを作っているので、小学生からそういう意識を持てるように、ぜひ説明はしていただきたいという意見です。</p>
事務局	<p>検討課題とさせていただきます。</p>
石関会長	<p>よろしくをお願いします。</p> <p>具体的な修正、追加は、先ほどの中学生の夢のところくらいでしょうか。</p>
事務局	<p>これについては最終的な判断になると思いますので、今の段階で変更は考えていません。最終的に審議会としての答申をいただいて、それをもとに会長、副会長とご相談のうえで修正していくことを考えています。</p>
石関会長	<p>よろしくをお願いします。</p> <p>それではただ今をもちまして、基本構想の審議を終了します。</p>
石関会長	<p><b>3. その他</b></p> <p>続きまして、その他を議題とします。</p> <p>事務局、何かありますでしょうか。</p>
事務局	<p>次回の開催日について、ご相談させていただきます。</p> <p>まず、候補日として、</p> <p>① 11月4日水曜日の午前もしくは午後</p> <p>② 11月5日木曜日の午前もしくは午後</p> <p>③ 11月12日木曜日の午前もしくは午後</p> <p>を提案させていただきます。</p>
石関会長	<p>本日は午後3時からでしたが、午後の場合、時間帯は何時からになりますか。</p>

事務局	午後1時と午後3時の2つに分けていただいております。
石関会長	午後1時開催にするか、午後3時開催にするかということでしょうか。
事務局	<p>そうです。したがって、全部で①～③×2で6案になります。メンバーが15人おられますので、出席できる最大の人数で決めさせていただきたいと思っております。よろしくお願ひします。</p> <p>こちらから日と時間を挙げますので、都合の悪い日をお示しください。</p> <p>(各日程に対して聞取り)</p>
事務局	それでは、11月4日午後3時～5時で決定いたします。
事務局	<p>宮園委員のご都合が悪いようですが、状況は議事録の形でご報告いたします。</p> <p>場所は改めてお知らせいたします。</p>
石関会長	それでは、次回の開催日を11月4日(水)午後3時に決定します。
石関会長	続いて、次回の審議会の具体的な内容について説明をお願いします。
事務局	<p>次回、第3回の審議会の具体的な案件としましては、基本計画(案)に対する意見・提言をいただきたいと思っております。</p> <p>なお、基本計画につきましては、内容が広範囲となりますので、次回の審議会では、計画(案)の47ページ、第3章の防犯対策の推進までを基本に審議をお願いしたいと思っております。</p>
石関会長	<p>それでは、ただいまをもちまして第2回四條畷市総合計画審議会を終了します。</p> <p>ありがとうございました。</p>